



障害児の心理	単位数	履修方法	配当年次
	4	R or SR	2年以上
科目コード	FE3518	担当教員	木村 進

■科目の内容

「障害」という言葉を聞いて、皆さんはどのような印象や感想を持つのでしょうか。「心身障害児」とか「障害者」とよぶ以上、そこには何か意味があるはずですが。保育や教育の場面に例にとれば、障害をもった子どもの保育・教育には、その障害の特徴に合わせた特別な配慮が必要だということを意味していると思われまます。障害をもった子どもの保育・教育が的確に行われるためには、「障害」についてきちんと理解し、「障害をもつ人」の心理について基本的な認識を深める必要があります。

ここでは、障害をいくつかの種類に分け、その特徴、原因を理解するとともに、障害をもつ子どもや大人がどのような心理状態に陥りやすいかということをお学習します。

■到達目標

- 1) 「障害」の意味をさまざまな角度から考察し、特に、その社会的な意味について自分の考えを述べることができる。
- 2) さまざまな種類の障害について理解し、学習前に抱いていた障害についての知識や考えとの異同を具体的に明らかにすることができる。
- 3) 特に、「発達障害」についての理解を深め、それぞれの障害を持つ子どもへの働きかけ（育児・保育・教育）のあり方について具体的に考えることができる。
- 4) 障害児をもつ家庭への支援について深く理解し、自分がかかわるとしたら、どのような働きかけが適切であるかについて説明することができる。
- 5) 「障害児」と「障害を持たない子ども」を区別することの意義について考察し、そのことが、障害児にとってプラスになるようにするには、どのような配慮（条件）が必要であるかについての考えを述べるすることができる。

■教科書

田中農夫男・木村 進編著『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』福村出版、2009年
(最近の教科書変更時期) 2010年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	障害とは (序章2)	障害という言葉の意味の理解 キーワード：障害、統計基準、生活基準、WHO、ICIDH、ICF、ノーマライゼーション、行動の障害、発達の障害	①教育場面を想定した定義を理解する。 ②WHOの障害の捉え方を理解する。③障害に関する発達心理的視点を理解する。
2	知的障害の理解① (6章)	①知的障害の定義の理解 ②心理的特徴の理解 ③知的障害児の支援のあり方の理解 キーワード：知的機能、適応行動、知能検査、ダウン症候群、知覚、注意、記憶、インリアルアプローチ	①A AMRの定義を理解する。②知的障害の原因を理解する。③知的障害児の知覚・認知記憶および言語の特徴を理解する。④生涯発達の視点から、知的障害者への支援について総合的に理解する。
3	知的障害の理解②：老年期の知的障害 (20・21章)	①老年期の知的機能の特徴についての理解 ②認知症の理解 キーワード：言語性IQ、動作性IQ、認知能力、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、見当識、実行機能、妄想、パーソンセンタードケア	①老年期における記憶を含む認知機能の変化について理解する。②認知症について理解しその行動特徴を知る。③認知症高齢者の介護のあり方について考察する。
4	運動障害・肢体不自由の理解① (5章)	①運動障害の定義の理解（原因疾患も含めて） ②運動障害児の心理的困難についての理解 ③運動障害児への支援についての理解 キーワード：肢体不自由、脳性まひ、骨関節疾患、図と地、摂食・嚥下障害、器官劣等感、身体像、AAC	①運動障害とは何かを理解した上で、主な原因疾患である脳性まひと骨関節疾患について調べて理解する。②コミュニケーション・運動・認知・学習面における困難さを理解する。③それぞれの困難さに対する支援について理解する。
5	運動障害とは②：動作法 (15章)	①動作法(心理学リハビリテーション)の考え方の理解 ②動作法による援助の視点の理解 ③動作法のプログラムの理解 キーワード：動作法、意図-努力、課題動作、とけあい動作法、コミュニケーション・ループ	①動作法の歴史を理解し、基本となる考え方を理解する。②いろいろな障害を対象とした動作法の支援の視点を理解する。③動作法の基本的なプログラムを理解する。
6	言語障害とは (3章)	①言語障害の定義の理解 ②コミュニケーションの手段としての言語の特徴の理解 ③言語障害の種類を踏まえて、援助のあり方の考察 キーワード：言語障害、ことばの鎖、言語と話しことば、失語症、音声障害、吃音	①コミュニケーションの過程を踏まえて言語障害の意味について理解する。②言語障害の3つの特徴を理解する。③言語障害者への支援について、周囲の人への働きかけを含めて考察する。
7	学習障害とは (7章)	①学習障害の具体的理解（類型を含む） ②学習障害の随伴症状の理解 ③学習障害の判定の理解 ④学習障害児への教育的取り組みの理解 キーワード：学習障害、LD、中枢神経系、協応運動、社会的知覚、スクリーニングテスト、除外条項、LDサスペクト、通級学級	①類型を踏まえて、学習障害を具体的に理解する。②学習障害の主症状と随伴症状の両方を理解する。③早期発見から判定への流れとして理解する。④通級学級について調べた上で、学習障害児への教育的取り組みについて考察する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	注意欠陥多動性障害とは (8章)	①ADHDの診断基準の理解 ②ADHD児の行動特徴の理解 ③ADHD児の保育・教育のあり方についての理解 キーワード：ADHD, 不注意, 多動性, 衝動性, 自尊感情, ペアレントトレーニング, PDSC, 自己効力感, 二次的障害	①診断基準の理解を踏まえて, ADHDの症状について具体的に理解する。二次的障害についても理解する。②ADHD児の保育・教育について理解する。その際, 接し方と働きかけ方に分けて理解するように努める。
9	自閉症スペクトラム障害とは (9章)	①自閉症の診断基準の理解 ②自閉症の症状の理解 ③スペクトラムということの理解 キーワード：自閉症スペクトラム障害, アスペルガー障害, 心の理論, 高機能自閉症カナー, アスペルガー, ウィング	①診断基準については, DSM-5において大幅な改定が行われているが, 自閉症を理解する上ではテキストに載っている古い基準でも大丈夫だと思われる。診断基準を通して主な症状について理解する。②スペクトラムという捉え方について, ウィングの考えを理解する。
10	幼年期の障害 (18章)	①幼年期における障害の捉え方の理解 ②「気になる子」という捉え方の理解 ③発達アセスメントと保護者支援の理解 キーワード：代謝性障害, 発達障害, 確定診断, 状態像の変化, 気になる子, 虐待, 注目欲求, 記憶範囲, 発達アセスメント, 行動観察, 心理検査, 保護者支援	①幼年期に特有の障害はないので, 幼年期における障害をどのように捉えるかという視点での理解を図る。②なぜ「気になる子」という表現をするのかを理解した上で, 支援について考察する。③発達アセスメントを具体的に理解するとともに, 移行支援, 保護者支援のあり方について考察する。
11	視覚障害／聴覚障害とは (1・2章)	①視覚障害の基礎的理解 (判定を含む) ②視覚障害者の職業の理解 ③視覚障害についての基礎的理解 (判定を含む) ④手話と口話についての理解 キーワード：視覚障害者, 正眼者, 点字, 墨字, 鍼灸, 難聴, 聾, 健聴者, 九歳の壁, 手話, 口話	①生活を通して視覚障害者の特徴を理解する。②歴史的視点から視覚障害者のする職業を理解する。③日常行動を通して聴覚障害を理解する。④手話と口話を土台にして, 聴覚障害者のコミュニケーションについて考察する。
12	特別支援教育 (19章)	①特別支援教育とは何かの理解 (対象も含む) ②特別支援学校・特別支援学級／通級指導教室における教育の理解 ③通常学級における教育についての考察 キーワード：特別支援教育, 特殊教育, 発達障害, 病弱・身体虚弱, ソーシャルスキルトレーニング, 個別の指導計画	①特殊教育から特別支援教育の流れを踏まえて理解する。②それぞれの特別支援教育の場における教育の特徴を理解する。③通常学級に在籍する特別支援教育対象者の教育について具体的に考えてみる。
13	障害児をもつ家族 (11章)	①家族および家族の機能についての一般的理解 ②障害児をもつ家族の問題の理解 キーワード：家族, 家族機能, 社会化モデル, 情緒安定, 核家族化, 母性行動, 性別役割分業, 養育態度, ライフステージ, 危機, ライフイベント, エンパワーメント	①家庭の機能について一般的に理解するとともに, 現代における家庭の特徴を母子関係の変容を中心に理解する。②障害児を持つ家庭の問題点について, それぞれの時期 (ライフステージ) を前提にして理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	障害児をもつ家庭支援(12章)	①障害のある子どもを持つ家庭における情動的反応の理解 ②障害のある子どもの存在に関連する家庭内の問題の理解 ③障害のある子どもを持つ家庭への支援に関する考察 キーワード：情動的反応、慢性的悲嘆、放任、強制、過保護、葛藤、対立、孤立、複雑化、多様化、長期化、共感、傾聴、養育	①家庭支援を考える前提として11章4節をまず理解する。②具体例を参考にしながら、情動的反応の変化について理解する。③家庭内に起こり得るさまざまな問題について、支援を意識しながら理解する。④支援のあり方について、対象者を中心にした理解を図る。
15	まとめ：障害児の理解(序章1・16章)	①障害の意味についての再考 ②障害者の心理的特徴の総合的理解 障害者の生活の質という視点から、支援のあり方の再考 キーワード：新しい呼び方、五感、バリアフリー、介護保険、ADL、IADL、QOL、EMB、メンタルヘルス、生理的欲求、安全の欲求、所属と愛の欲求、承認の欲求、自己評価、自己決定能力	①1回目の学習(序章2)を振り返りながら改めて障害の意味について考える。②障害が与える心理的影響について総合的に考える。③障害のある人のQOLについて考察し、それを踏まえて支援のあり方を考える。

■レポート課題

1 単位め	「心身障害児」などという場合の「障害」の意味について説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題(別レポートは論述式)・web解答可(客観式)
2 単位め	「知的障害児」の心理的特徴と学童期の指導について説明しなさい。
3 単位め	「発達障害」とは何かについて説明しなさい。
4 単位め	障害のある子どもをもつ家庭への支援についてまとめなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題(別レポートは論述式)・web解答可(客観式)

■アドバイス

レポートを書き始める前に、この課題集と教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくことが第一に重要です。該当する箇所は1カ所とは限りませんから、課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。

『学習の手引き』序章(または6章)に「レポートの書き方」を載せてありますので、もう一度読んで、作業手順を確認してから、レポート作成にとりかかってください。

課題はすべて、基本的には教科書に書いてあることについてまとめ、それに参考文献等で肉付けをするという形で書けるはずですが、教科書をまとめるだけでは不十分ですので、必ず教科書以外の参考文献の内容も加えて書いてください。

1単位め
アドバイス

最初のレポートは、「障害」ということの定義を書きなさいという課題です。これは「序章2」の内容をまとめることが中心になりますが、「序章1」の内容や他の研究者の定義なども含めて内容を充実させることが望まれます。定義について考察することにより、「障害とは何か」ということについての理解を確立することが目標です。そして、それらを総合して、できれば、自分なりの定義としてまとめてください。他の課題も同様ですが、教科書を含めて、参考文献を明記することを忘れないでください。

2単位め
アドバイス

2単位めは「知的障害」がテーマです。教科書の内容を踏まえて、足りない分は他の文献で調べてください。内容としては、①知的障害とは何か（定義）、②知的障害をもたらす原因についてコンパクトにまとめてから、③心理的特徴について説明し、さらに、④学童期における指導について論じてください。①～③は、教科書をまとめることで書けますが、④は、教科書だけでは内容が不十分ですので、他の文献を捜してください。なお、④は、「学童期」に限定していることに留意してください。また、④の内容は、「支援」ではなくて「指導」となっています。この指導という意味は、「学習指導」と解釈してください。

「知的障害」はもっとも数の多い障害といえると思います。もし将来障害児・者関係の仕事をするとしたら、知的障害の子どもや大人を相手にする可能性が高いので、このレポートでしっかり学習してください。長い間「精神薄弱」とよばれ、その後「精神遅滞」とよばれるようになり、最近は「知的障害」が使われることが多くなりましたが、この呼称の変遷は、「障害」ということを理解する上でも興味深いことだと思われます。

このレポートの中心はあくまで③と④であることに注意してください。

3単位め
アドバイス

この課題は、「発達障害」というものについての理解を深めるために設定したものです。障害児教育の歴史を見てみると、障害児（特に知的障害児）が「教育可能」「訓練可能」などと分類された時代があり、ある程度以上重い障害児は教育の対象になっていなかった時期がありました。その後、昭和54年に「障害児の全員就学」が実現し、重い障害の子どもにも教育の光が当たるようになりました。そして、現在は、通常学級に在籍するLD、ADHD、自閉症スペクトラム障害などの発達障害をもつ子どもたちの教育をどうするかということが課題になってきています。こういう状況を受けて、ここでは、そういう「発達障害児」についての学習を進めることが課題です。

具体的には、上記のLD、ADHD、自閉症スペクトラム障害のそれぞれについて、①定義、②そのような障害が起きる原因、③主な特徴（症状）、④基本的な教育（指導）のあり方の4点をレポートしてください。この課題は、「第7章」「第8章」「第9章」を読んでまとめるという作業になります。大体的内容は教科書で間に合はずですが、教科書以外にも手を広げて、充実した内容にしてください。

他のレポートについても同じですが、あなたがたは、レポートを書くことによってそのことについての理解を深めるということが目標なので、自分で書いたレポートの中に専門用語など、言葉としては知っていても意味の理解が不十分な単語や言い回しが出てきたら、それについて[注]をつけて解説するというをやってみてください。そうすれば、何よりも自分にとってわかりやすいレポートになります。

●参考——発達障害の定義・診断基準の1つ = DSM-5の変更

発達障害の定義・診断基準などはさまざまなものがありますが、「DSM」（ディーエスエム）と呼ばれるアメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計の手引き」が2013年5月に改訂され、DSM-5（ディーエスエム ファイヴ）として発表されました。教科書には掲載されていないので、ここで補足しておきます。

DSM-5（ディーエスエム ファイヴ）の定義では、例えば「広汎性発達障害」が「自閉症スペクトラム（障害）」に呼び換えられるなどの変更がなされています。

また、「自閉症スペクトラム（障害）」の診断は「社会的コミュニケーション」と「限定した興味と反復行動」の2つから判定され、「アスペルガー障害」「小児崩壊性障害」などの下位分類がDSM-5からはなくなっています。

もちろん「広汎性発達障害」や「アスペルガー障害」の呼び方がなくなるわけではありません。また、このような変更が今後、教育分野でも採用されていくのか現状ではわかりませんが、今後、発達障害の診断とそれにとまなうかわり方について、引き続き学習を深めていってください。

4単位め アドバイス

この課題では、障害のある子どもをもつ家庭への支援のあり方について学習します。テーマの中心は「支援のあり方」ですが、適切な支援をおこなうためには、そのような家庭についての確に理解しておく必要があります。したがって、まず、「11章」の内容から「家族関係」というものについての基本的な理解をして、それに基づいて「12章」前半の「家族の心理」を論じ、最後に「支援のあり方」を考えるという内容になると思われます。

受講生の中には、さまざまな立場で、障害児をもつ家庭への支援に携わっている方もいると思われます。的確な支援を行うためには、障害の理解、発達の理解と並んで、この支援のあり方について考えおよび支援のスキルが問題になります。この課題は、支援についての考えを問うものですが、他の文献も参考にして、支援スキルにまで言及することが望まれます。「支援」という言葉に含まれる意味はかなり広いと思われるのですが、ここでは、家庭あるいは家族に直接支援するということを前提に内容を考えてください。つまり、あなたが、直接相談を受けるとか親を指導する立場であるとか、あるいは、育児カウンセラー的な立場であるとか、そういうことを想定してレポートをまとめてください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 応用問題ははありません。教科書の内容をしっかりと理解していれば書ける問題です。
- 3) 教科書に書いてあることの中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）がしっかりと書けているかどうか採点のポイントになります。キーワードを覚えましょう。

■参考図書

- 1) 中司利一著『障害者心理——その理解と研究法』ミネルヴァ書房、1988年
- 2) 小池敏英・北島善夫著『知的障害の心理学——発達支援からの理解』北大路書房、2001年
- 3) 熊谷公明著『発達障害の基礎』日本文化科学社、1999年

4) 栗田広編著『広汎性発達障害』全国心身障害児福祉財団, 1998年

5) 池田勝昭・目黒達哉編著『障害者の心理・「こころ」』学術図書, 2007年

※その他「発達障害」関係の文献はたくさん出ています。図書館や書店でさがしてみてください。